

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年10月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467600126
法人名	社会福祉法人 誠心会
事業所名	グループホーム 南松園
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町田代川原430-1 (電話) (0994) -25-2364
自己評価作成日	令和4年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎地域との関わりが途切れないように地域住民との交流、行事への参加や社会資源の活用を積極的に推進している。</p> <p>◎介護の重度化が進む中、近隣のクリニックと医療面の連携を図り健康で安心した生活を送れるように取り組んでいる。</p> <p>◎重度化に対応した、環境整備と介護技術の向上に取り組んでいる。</p>
--

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年10月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは大隅半島南部の自然豊かな農村地帯に位置し、特別養護老人ホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所・在宅介護支援センター・協力医療機関が近接にあり、1ユニットで平屋建ての静かな佇まいの建物である。その周囲には専従職員が花を植え、菜園で野菜を育てて管理しており、利用者は周囲の自然環境と共に四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。</p> <p>利用者の立場に立って意思を尊重し、地域との交流を大切にして、家庭的な雰囲気の中で穏やかな時間の流れを感じながら過ごせる支援を理念に掲げ、職員は利用者の気持ちを大切に考えて、本人のできることを大事に継続されるようなケアに努めている。法人には①高齢者虐待防止、②事故(ヒヤリハット)防止、③感染症及び食中毒対策、④褥瘡及び排泄対策、の4つの委員会組織があり、行事に関してはホームで交代に担当者を決めて取り組んでいる。</p> <p>認知症に対する理解を深めるために毎月開催される認知症ケア会議では、日常生活の中で利用者の言動を振り返ってその心理を探り、気になることをメモに残して検討し、ケアの充実に繋げている。また、地域包括支援センターを中心とする認知症短期集中支援推進事業では、地域の徘徊高齢者SOSネットワーク協力機関として、医師・施設・商店・薬局等の協力を得て年2~3回会議を開催し、情報の共有を通して地域との繋がりを重視した組織作りに取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲げ職員全員が理解し、日々のサービスに活かすように取り組んでいる。	開設当時から理念を掲げてホールと事務所に掲示し、地域との連携や交流を大切に、家庭的な温もりの中で穏やかな時間の流れを感じられる環境づくりを目指している。職員は朝礼や会議等を通して理念を振り返り、利用者の意向を推し測りながら、利用者本位のケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや法人内事業所の行事にコロナ禍の中、状況を見ながら参加している。地域住民との交流は園内での交流は難しい中、状況を見ながら少しずつ再開していく予定である。	自治会には入っていないが、日頃より地域の方々とは多くの交流の場を設けている。保育園児との窓越しの触れ合い、法人内の行事への参加、近隣の方からの野菜の差し入れ等があり、ホーム外へ出て帰れなくなった利用者に気づいて支援してもらうなど、地域の理解を得ながら良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族や地域の方の来園時などに認知症に関する相談やアドバイスをを行う事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族、近隣住民や行政の方々の参加の中で、活動内容などの報告・説明と意見交換できる時間を設けサービスの参考にしていく。	会議は2ヶ月毎に家族・地域住民・町の担当職員・総合施設長等の参加を得て開催している。現況及び行事報告、認知症ケアについて、感染症対策についてなど、テーマを決めて意見交換を行い、業務改善に生かせるように努めている。家族の出席は一家族のみに定着しているため、参加できなかった家族に対しても情報共有できるように、検討していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り合う中で、当事業所の状況を説明することもある。また運営推進会議にて詳細を説明している。	町担当者は毎年交代制で決まっており、電話・FAX・窓口等を通してホームの実情や取り組み、各種制度手続きの相談等を行い、日頃から協力関係を築いている。町主催の研修会、グループホーム協議会の研修会等にリモートで参加したり、地域包括支援センターを中心とする認知症短期集中支援推進事業において、地域の協力機関のネットワーク育成に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を職員全員が理解しており、研修参加により知識向上を図っている。また定期的に全事業所が集まる委員会にて身体拘束防止に向けての課題などを話し合っている。	法人内での高齢者虐待防止委員会が中心となり、「身体拘束適正化のための指針」を整備して会議を3か月毎に開催している。年2回以上法人及びホームで研修を実施し、職員間で情報共有を図って身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関の出入りは自由にし、言葉による拘束にも配慮し、名前には「さん」を付けて口調が強くないように気配りしている。特に職員の言葉遣いについては、施錠された意見箱を事務所に設置し、管理者が確認して改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会にて高齢者虐待についての研修を行っている。また定期的に全事業所が集まる委員会にて、虐待防止に向けての意識を向上させている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が乏しいが法人内勉強会にて研修を行うことがある。今後も引き続き検討していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を利用者様・御家族の前で説明し十分納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設けている。また面会や電話での連絡の際に要望や意見を伺うようにしており、改善すべきことがあれば職員会にてあげている。	利用者の殆どが意見や要望を伝えることができ、日常会話や表情等から把握するように努めている。家族の意見は意見箱に入れるより直接電話や面会時等に話されることが多く、ホーム便りや写真・近況報告を通して生活の状況を理解してもらい、もらった意見等は朝礼等で職員間でも情報を共有し、運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議や朝のミーティングにて、意見や提案を聞くようにしており、サービスの改善や環境整備につなげている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを良好に保ち、普段から声かけするように心がけている。個別的な内容については事務所で対応し、他職員からの情報にも耳を傾けて、職場環境の整備に努めている。職員は有給や希望休の取得、緊急時の勤務交代等も可能であり、働きやすい職場環境は定着率の高さに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき適正に職員処遇を行っている。また有給休暇の取得や、休み希望願いなど快く話ができる雰囲気を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験、技量を見ながら本人に適した質の高い研修に参加させるよう配慮している。また資格取得を支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣に事業所が少ないこともあり交流する機会が乏しいが研修での交流など環境作りにこれからも努めていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前に、本人の不安な点や要望を聞くようにしサービス、生活環境の改善につなげている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前に、家族の不安な点や要望を聞くようにし、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用前に、本人や家族の不安な点や要望を聞くようにし、専門職の視点から必要な援助を助言している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>料理作りや野菜の収穫、手芸、日常の作業などを一緒に行い、常に会話するように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ月に1回、手紙を送り近況を伝えている。また運動会などの行事の時には参加への呼びかけをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に暮らしていた自宅付近のドライブ、また旧友や知人が面会に来られた時は状況に応じてゆっくり話ができるような環境作りに努めている。	利用者にとって馴染みの関係が途切れないようにするために、電話の取り次ぎ・手紙の代読・車中からの墓参り・旧友との窓越しの面会・家族との病院受診と外食など、ゆったりと過ごせるように可能な支援を行っている。2か月毎の訪問美容・行きつけの美容室通い・自宅付近のドライブなど、本人を支えてきた関係性を大切にす支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに声掛けを行い、利用者みんなで会話できる雰囲気をつくっている。またみんなで楽しめるレクリエーションや行事の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への入所や、病院入院による退所の場合などでも、気軽にホームに遊びに来て頂くよう声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望を聞いたり、気づいた点があった場合、記録に残している。	利用者は自分の思いや希望を伝えることができるため、日常生活の中で確認でき、申し送りでの情報や支援経過記録等からも把握できる。言葉による表現が十分にできない利用者の場合、本人の表情や生活歴・家族からの情報等により、本人の望む生活の実現を目指して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に本人、家族から聞き取りを行い、生活歴や環境を把握している。またサービス利用の中で気づいた部分は随時記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をしている中で、本人の行動の変化や言動など気づいた点があれば随時記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、関係職員で意見交換を行い、改善すべき課題や生活環境、また本人の生活歴などを参考にその人らしさを反映させた介護計画を作成している。	利用者及び家族の生活に対する意向を踏まえ、本人のできることや希望することが続けられるように、本人の気持ちを大切に考え、できることを大事にした介護計画を作成している。毎月ケース会議を開催し、職員の意見も計画に反映させ、モニタリングを3月毎に実施し、状態の変化に応じて介護計画を見直して年1回作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、本人の気づいた点や変化を随時記録し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを把握し専門職の視点から、さまざまな支援、アドバイスをを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の今までの生活環境の中での地域とのつながりを把握し、利用者の要望に応じた地域資源の活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を尊重しており、適切な医療を受けられるように支援している。	協力関係機関を主治医としている利用者が殆どであるが、専門診療科への受診や治療についても支援している。月2回は協力医による訪問診療が行われ、昼夜を問わず24時間医療連携体制が構築されている。必要時には協力医の指示を得たり往診での対応が可能で、近隣の調剤薬局との連携も図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	日常生活の中で気になることや気づいたことを連携している訪問診療の看護師に伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	地域の病院担当者と密に連絡を取り合っている。情報交換や相談を行う事で、円滑な病院利用に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	終末期のケアや重度化の対応については利用開始前にホームの方針を説明し、利用者、家族、嘱託医、職員と意見交換している。	重度化や終末期の対応に関する指針は作成しておらず、入居時に口頭で説明している。ホームでの看取りは実施していないが、重度化への対応・病院受診の必要性等について主治医や家族・関係者間で十分に話し合い、可能な限り本人・家族の思いに沿った支援に取り組んでいる。今後は、重度化や終末期について、家族の意向を確認しながらホームの指針を検討していきたいと考えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	利用者の急変、事故発生時に対応できるよう、職員勉強会を行ったりマニュアルを整備したりして迅速に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣の方も参加した火災避難訓練を定期的に行っている。マニュアルも定期的に見直している。またその他の災害を想定したBCPを整備している。</p>	<p>地震・大雨・台風・土砂災害警戒時の対応について、「自然災害対策マニュアル」を整備している。また、平時の対応や「自衛消防活動マニュアル」も作成し、年2回消防署と合同で夜間想定を含めた火災訓練を実施している。訓練に際しては地域への声かけを行って協力をもらうなど、地域住民の協力体制が構築されている。備蓄はホームで水・α米・レトルト食品等を一週間分保管し、管理者が日付管理を行っている。災害時献立表も作成されており、カセットコンロ・ランタン・懐中電灯・ラジオ等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したサービス、丁寧な声掛けを全職員が意識して行っている。	居室やトイレの入口の扉は閉める、入浴では利用者の要望に応じて同性介助も可能とするなど、プライバシーの確保に努めている。職員の意識付けを図るために、高齢者虐待と人権擁護に関する研修を定期的実施し、利用者の尊厳やプライドを損ねないような対応に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、利用者の希望や意見を引き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは計画しているが利用者の意向やその日の体調や状況に合わせて変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や地域の行事への参加の時は化粧を手伝っている。また日常生活の中での衣服もなるべく本人に選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で食事の好みや要望を聞いている。食事作りや畑での野菜の収穫、食材の買い物など一緒に行うように心がけている。	食事は全てホームで手作りしており、利用者は下ごしらえ・包丁を使って食材のカット・みそ汁作り・お膳拭き等、発揮できる能力に応じて職員と一緒にできるように支援している。テイクアウト・行事食・菜園で収穫した食材の活用等も取り入れながら、食への楽しみにつながるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事量を記録して利用者の健康状態の変化が早期に分かるようにしている。また食事の献立や栄養等の事など同法人の管理栄養士に助言をもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄の声掛けをして利用者の状態に応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の声掛けや、トイレ誘導をしてなるべくオムツに頼らないような排泄支援に努めている。	声かけは小声でさりげなく誘うなど、羞恥心に配慮した支援に努めており、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄の状況は「生活・身体・栄養状況記録」の中で、摂取水分量と共に記録され、時間ごとに誘導を行っている。便秘で内服している利用者もいるが、予防のために水分・食物繊維の多い物の摂取等に配慮し、法人栄養士のアドバイスをもらって改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状況を記録している。便秘の方には水分摂取方法の工夫や体操、散歩など適度な運動への働きかけをしている。また同法人の管理栄養士から便秘予防の食材の助言をもらい食事内容の参考にしてしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	計画的な入浴をおこなっているが、希望や体調に合わせて臨機応変に入浴ができるようにしている。また重度化に対応した入浴の工夫や環境整備に努めている。	週3回、午前中に1対1の個浴で入浴の支援を行っている。入浴剤やゆず湯を楽しんだり、希望に応じて同性介助も可能である。石鹸・シャンプー等は共用で、入浴後の保湿剤は個人毎に使用している。入浴をためらう場合には、時間をずらしたり声掛けする職員を変えたり、更衣のみとするなど、無理強いすることのないよう柔軟な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な1日の流れは計画しているが、利用者の体調や意向などに合わせて変更している。また利用者の好きな時間に休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を適切に服用できるよう職員が管理している。また薬の説明書をいつでも職員が内容を確認できるようにしており、随時薬剤師からの助言指導設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に家族、利用者より生活歴や趣味などの情報をもとにその人に合った役割をお願いしている。また趣味も楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を尊重した、ドライブや遠足、買い物等の外出支援を行っている。また家族の方の協力を頂いて自宅への外出、外泊ができるように支援している。	現在はコロナ禍で外出を自粛する傾向にあるが、感染対策や利用者の気持ちに沿った支援となるように努めている。家族との受診時の外食も再開されつつあり、季節の花見や自宅付近までのドライブ・ホーム周辺の散歩など、可能な限り外出の機会を見つけて出かけられるように取り組んでいる。今後は、弁当持参での遠足等について検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	日常生活では使用する機会がないが、外出や買い物では一人ひとりがお金を所持し、好きなものを購入できるように支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	利用者からの希望があれば電話や手紙のやり取りを支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居心地よく過ごせるように、シンプルなりビングにしている。また季節感を感じられるような飾りつけの工夫をしている。	ホームの周囲には専従職員が花を植えたり菜園で野菜や芋を育てており、四季を感じたり食材として活用されている。ホールには生花が活けてあり、来客や家族とはガラス越しの面会ができる。廊下には利用者の作品や季節に合わせた飾りが掲示され、対面キッチンからは調理の匂いや音が伝わってきて、家庭的な雰囲気の中でゆったりと寛げる環境となっている。採光は十分に明るく、窓を開けて換気もしっかり行われている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者同士でゆっくりと会話やテレビを楽しめるようなソファの配置などを工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者や家族と相談して、自宅で使用していた馴染みの物や写真、飾り物などを持ってきて頂き利用者の要望に応じた配置など居心地よく暮らせるように配慮している。</p>	<p>居室の入口はプライバシー保護の観点から名札は表示されず、洋室で腰高窓仕様の居室には、エアコン・ベッド・クローゼットが備えられている。利用者は使い慣れた湯のみを持参したり、テレビ・タンス・位牌・写真等を自由に持ち込み、拭き掃除やモップ掛け・ごみ拾いなど、できることを職員と一緒に取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が安心して生活できるように、建物内部の配置の工夫やその人の「できること」「わかること」に合わせた声掛けや環境作りを工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない